

日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

2000年(平成12年)

11月21日

第2号

〒113-0034 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館

TEL 03-3251-4606

FAX 03-3251-4853

国内外の中国学会裏話二種

理事長 福井 文雅

1. 第36回 ICANAS (東方学国際会議) での中国学 sinology

2000年の夏八月末、約一週間、カナダのモンレアル Montréal (英語表記ではモントリオール Montreal) 市で、第36回ICANASイカナス (国際アジア北アフリカ研究会議、旧称国際東方学者会議) が開催された。主催はモンレアル大学の東アジア研究所で、主催者代表は当研究所長のシャルル・ルブラン Charles Le Blanc 教授であった。

教授は米国ペンシルヴェニア大学において、かのダーク・ボッデ Derke Bodde 博士に師事している。

私が敢えて「かの」と強調したのは、ボッデ博士は日本の学界では知る人ぞ知るアメリカを代表する漢学者だったからである。博士は十歳で父親と共に上海に渡り、いったん帰国してハーヴァード大学で英文学を、次いで大学院で中国語を学び、中国へ戻って古代中国史と中国文学を六年間修め、1938年にライデン大学で博士号を取得、そして1938年から1975年の退職まで、ペンシルヴェニア大学の正教授であった。

アメリカの今日の中国学を創設した一人であり、多くの著述で知られるが、その中の“Essays on Chinese Civilization (Princeton U.P.1981) [中国文明論叢]”の序文は、弟子のドロシ・ボレイ Dorothy V. Borei と、シャルル・ルブラン Charles Le Blanc の二教授の合作である。その序文には次のように言う、「中国で長年暮らし、中国古典の訓練を受けたと言う両方の点で、ダーク・ボッデは西欧の中国学の伝統を継承する最後の一人であった。」

ここで言う「西欧の中国学の伝統」とは、フランスを中心とした十七世紀以来の中国研究である。中国古典の文献研究を基本とし、これを出発点とする。第二次世界大戦前に中国大陸で教育を受けた西欧の中国学者が多くそうであったように、ダークボッデは革命以前の旧中国を体験し、その中で、伝統的な漢学教育を受けたのであった。その古典中心の伝統的な漢学を、ボッデはアメリカの学生達にも伝えようとしたに違いない。現在のアメリカの中国研究は、第二次世界大戦後に急速に進展した新しい傾向の学風である。

そのような中で、中国・西欧の「旧き良き時代」の漢学教育を継承したルブラン教授が、先秦諸子百家、とりわけ法家の専門家に成り、フランス・プレイアドPléiade版訳註叢書の中で『韓非子』等を刊行しているのも不思議ではない。氏の勤務先モントリオール大学はカナダでもフランス語文

化圏にある。そのような仕事との関係からであろうか、氏はフランス・パリに寓居も構えている。

そこで、ハンガリ・ブダペストで1997年7月の第35回国際東方学者会議が終わったあと、私は氏とフランス・パリの「ドゥ・マゴ Aux Deux Magots」で待ち合わせることにして、(今回の)モントリオール大会の下相談をした。このカフェには「二体のシナ人形」が欄間に飾ってあるのでこの名があり、パリ左岸で知らぬ人はいない。

教授は私が元フランス政府留学生であると言うので、特別な親近感を抱かれたようである。私も会うたびに、教授から「旧き良き時代」の漢学教育を継承している雰囲気を感じさせられたものである。

パリのあと、氏は下準備のために世界各国を廻って一昨年訪日し、私は東京でも再会した。私は「日本の中国学」の立場から、教授には遠慮なく種々私案やら希望を述べた。しかし、昨秋日本学術会議の公用で又パリに行った時、帰路私は脳梗塞の前兆に襲われ、数年に渡って準備した今回の国際会議への出席は断念せざるを得なくなった。教授は残念がり、「あなたはプログラムに大会運営委員の一人として印刷済み。市中の病院に個室をとるから、出席できないか？」とまで配慮してくださったのであるが、万一の場合を考えて私は辞退した。日本中国学会の為に貢献できなかったことは、誠に申し訳ない。

幸いに、前回のブダペストでの大会と違って、日本人漢学者の参加者は多く、それぞれに活躍下さったのは、慶賀にたえないことである。閉会后しばらく経った今日、色々な反響が次第に私にまで伝わって来ている。日本中国学会の会員からも、多数の一しかも若い一研究者が参加し、英語、時にはフランス語を使って発表し、好評であったらしい。

私が殊の他この諸氏の活躍に悦びにたえないのは、これまでの国際会議では日本人の参加となると、飾り物扱いか参加への謝辞が添えられるくらいの扱いが多く、対等に論争する場合は稀れであったからである。使用言語の問題もある。日本人中国学者が、国際会議で現代中国語、漢語ができて自慢にはならない。ある国際会議で、「我々は漢文がすらすら読める」などと自慢した日本人が、「日本人なら当たり前。むしろ、それしか出来ないのが問題だ」と、西欧人にてひどく逆襲されたシーンさえある。

ただし、古文・古典漢文ができれば話は別である。高名な中国人学者とも対等に成り得る。発表後、「真佩服」と言う賛辞も彼等から聞くことができるのではあるまいか。

2. 口頭発表の今昔

最近どの学会に行っても気になることであるが、口頭発表で原稿を読み上げる人が多くなった。或る年の中国学会のこと、私が司会の時、発表者は原稿を読み上げた。質問時間に吉川幸次郎先生が立たれて、発表者に対してこう注意なされた、「学会発表では、原稿は読むものではない。原稿は自宅で、一人で読んでから、来て戴きたい。」と。私は全く同感であった。

口頭発表の場合では、原稿の棒読みとは発表の仕方が違うはずであるし、違わねばならないからである。聴衆は聴きにわざわざ来てくれている。聴衆が原稿さえ読めば判るような発表では、遠路来てくれた聴衆に対して失礼ではないだろうか？

研究発表はお勉強の一方的な報告ではなく、問題意識をハッキリ持って、聴衆に意見を問うという目的がある。原稿を読み上げるだけでは、発表内容は自家薬籠中のものではない、とすぐ見抜かれてしまうのではなかろうか。口頭発表でなければ伝えられないような、或いは、口頭でこそもっとも効果的に発表出来る研究発表をこそ、案出すべきであろう。

原稿を読み上げる発表形式は、口頭発表が業績として点数に数えられるようになってから多くな

ってきたようである。「点数を上げれば良いので、聴衆が聴いていようがいまいが、用意した原稿を読み終わりさえすればよい。」とでも言いたいような、聴衆無視の発表にみえる。

それでも、若い内は許せるかもしれない。しかし、白髪の紳士になっても原稿を棒読みするのは、「研究発表」になるであろうか？想像しただけで、惨めである。それとも、白髪に成る頃には、研究発表は辞めるつもりなのであろうか。

ただし、外国語では事情が少し違う。特に漢語の場合は地方差があるので、公式にはむしろ原稿を読む。或いは、思い付きで喋っているわけではないことを示すために、わざわざ原稿を持って登壇する人もある。しかし、いずれにせよ、原稿の棒読み、つまり原稿にばかり頼る姿は、国際会議では軽視されるだけなのである。

彙 報

10月7日の総会における決定事項及び諸報告は次の通り。

【議決事項】

- (1) 平成12年度事業計画は承認されました。
- (2) 平成11年度決算及び平成12年度予算案が承認されました。
- (3) 次年度の大会開催校は、福岡大学（平成13年10月6・7日）に決定しました。

【諸報告及び関連事項】

- (1) 平成12年度の選挙管理委員は、次の会員に委嘱されました。（*は重任）

（理事） *戸川芳郎（委員長）
（評議員） *藤井省三・*丸山昇
（一般会員） 高屋亜希・竹下悦子・*清水浩子・*山田利明・*遊佐昇

- (2) 平成13・14年度理事長及び監事は、次の各会員が当選されました。

（理事長） 興膳 宏（近畿）
（監事） 田仲一成（関東）・戸倉英美（関東）・藤井省三（関東）

また、副理事長及び理事は、新会則にもとづく評議員会及び総会の承認を経て、次の会員に委嘱されました。

（副理事長） 大上正美（関東）・金 文京（近畿）
（理事） 池田知久（関東）・笈 文生（近畿）・川合康三（近畿）・北岡正子（近畿）
合山 究（九州）・戸川芳郎（関東）・富永一登（中国・四国）
福井文雅（関東）・堀池信夫（関東）・丸尾常喜（関東）

(3) 『学会報』第53集の編集担当校は、北海道大学（責任者は伊東倫厚会員）に委嘱されました。

第53集の〈学会消息〉欄の原稿は、記入責任者から北海道大学文学部中国哲学研究室（〒060-0810 札幌市北区北10条西7）宛にお送り下さい。資料は平成12年1月から12月までのものとします。

『学会報』第53集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。

哲 学 大東文化大学文学部中国文学研究室・代表：倉田信靖会員
（〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1）

文 学 九州大学文学部中国文学研究室・代表：竹村則行会員
（〒812-0053 福岡市東区箱崎6-19-1）

語 学 慶應義塾大学文学部中国文学研究室・代表：岡晴夫会員
（〒108-0073 東京都港区三田2-15-45）

著書及び論文抜刷などの資料を平成13年1月末日までに上記各研究室宛にお送り下さい。収載資料は、平成12年1月から12月までのものとします。

〈学界展望〉につきましては、資料現物の送付とは別に、会員各自同封の用紙（二種類あり）により自己申告していただくことになっております。申告なさる方は、用紙に記入の上、同封の封筒を利用して明年1月末日までにご返送下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、申告が無い場合は、収載漏れとなることがありますのでご注意下さい。また、研究論文目録として掲載不適当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

(3) 『学会報』の掲載論文公募について

締切日 平成13年 1月31日（当日消印有効）

枚 数 本文・注・図版等あわせて400字詰原稿用紙55枚以内

要 旨 400字詰原稿用紙5枚以内を添付する。

応募者は『日本中国学会報』巻末の〈論文執筆要領〉を遵守して下さい。原稿は必ず郵送、本部持込みは受理しません。また、投稿原稿は返却致しませんので、ご注意下さい。

(4) 本年度の日本中国学会賞は、以下の会員が授賞されました。

哲学部門 南部英彦会員（東北大学大学院）

文学部門 該当者無し

理事長より賞状と賞金（8万円）が贈られました。

訃 報

第51回学術大会以後、次の5名の会員が逝去されました。

江頭 廣（関東） 高木 友之助（関東） 田中 壽和（関東） 土井 健司（関東）
山田 琢（中国・四国）

総会の席上、上記の方々に対し黙祷が捧げられました。

◎会費納入について

会費未納の方には振替用紙を同封致しますので、至急ご送金願います。なお、数年にわたって未納の方は特にご注意願います。4年にわたって滞納されますと除名となります。

（郵便振替口座：00160-9-89927）

◎『学会報』送付停止について

平成11年度会費未納の方には『学会報』を送付致しません。会費納入が確認され次第、送付いたします。また、納入の際には、振込用紙通信欄に未送付の『学会報』の号数をご注記下さい。

◎住所変更について

住所・所属機関等の変更は速やかにご通知下さい。通知は書面もしくはFAXにてお願いいたします。電話および会費振込用紙でのお届けはご遠慮ください。

平成12年度文部省科学研究費補助金採択状況一覧

○特定領域研究（A）

原本「老子」の形成と林希逸『三子齋口義』に関する研究（二五〇万円）	池田知久（東京大学）
古典学の再構築・調整班A01「原典」（一四〇万円）	（東京大学）
東アジアの科学と思想（二五〇万円）	川原秀城（東京大学）
仏教における主要概念のインド・中国・日本における伝承と受容（二五〇万円）	丘山 新（東京大学）
六朝期の著作における伝統の継承と変容（二五〇万円）	興膳 宏（京都大学）
中国における制度と古典—科挙制度と言語史・文学史の相関から—（二五〇万円）	平田昌司（京都大学）
西洋近代哲学と中国古典（一五〇万円）	堀池信夫（筑波大学）
元明代の散曲研究（一四〇万円）	金 文 京（京都大学）
韓孟聯句研究（一五〇万円）	川合康三（京都大学）
北朝文化の研究—言語学研究的考察（一四〇万円）	木津祐子（京都大学）
漢代における古典の成立と文学の変容（八〇万円）	釜谷武志（神戸大学）
中国古典に現れる通常語についての再検討（一五〇万円）	木下鉄矢（岡山大学）
禅林聯句に関する基礎的研究（一〇〇万円）	朝倉 尚（広島大学）
中央ユーラシア地域に伝播した仏典の研究（一五〇万円）	吉田豊（神戸市外国語大学）
古典としての古典学—宋学文献を中心に（一五〇万円）	土田健次郎（早稲田大学）

○基盤研究 (A) 新規

環太平洋圏の華文文学に関する基礎的研究 (一〇四〇万円)

山田敬三 (福岡大学)

○基盤研究 (B) 新規

戦国楚系文字資料の研究 (一八〇万円)

竹田健二 (島根大学)

道教的密教的辟邪呪物の調査・研究 (七二〇万円)

坂出祥伸 (関西大学)

中国学に関する南欧所在資料の研究 (三七〇万円)

高田時雄 (京都大学)

伊藤仁斎・東涯の諸稿本に関する総合研究 (一一〇万円)

土田健次郎 (早稲田大学)

郭店出土竹簡及びそれと関連する出土資料の研究

—中国古代思想史の再構築を目指して— (三一〇万円)

谷中信一 (日本女子大学)

元代禅籍の語学的研究—『従容録』を中心として— (二二〇万円)

佐藤鍊太郎 (北海道大学)

中国西南儺戯における儀礼と芸術研究 (一六〇万円)

稲葉明子 (早稲田大学)

中国における通俗文学の発展及びその影響 (三三〇万円)

小南一郎 (京都大学)

中国における文化批判運動に関する総合的研究 (二七〇万円)

小谷一郎 (埼玉大学)

琉球・中国交流史研究 (二二〇万円)

上里賢一 (琉球大学)

○基盤研究 (C) 新規

春秋正義の発展的研究 (一一〇万円)

野間文史 (広島大学)

朱熹『家礼』の版本と思想に関する実証的研究 (一二〇万円)

吾妻重二 (関西大学)

山片蟠桃の思想形成と展開 (五〇万円)

岸田知子 (高野山大学)

俗文学資料による中国近世音の研究 (七〇〇万円)

花登正宏 (東北大学)

中国における家族に関する文学表象の展開についての基礎的研究 (一〇〇万円)

西上 勝 (山形大学)

「生活の芸術」の系譜と近代中国知識人の位置 (五〇万円)

伊藤徳也 (東京大学)

漢字文化圏の言語と「近代」に関する総合的研究 (一五〇万円)

刈間文俊 (東京大学)

「香港文学」の誕生と香港アイデンティティの成熟に関する研究 (一二〇万円)

藤井省三 (東京大学)

漢字字書研究の基礎としての『説文解字』受容史研究 (九〇万円)

伊藤美重子 (お茶の水女子大学)

敦煌文書・トルファン文書・正倉院文書の比較写本学研究 (二三〇万円)

松尾良樹 (奈良女子大学)

文学創作の発想法に基づく中国現代文学史の研究 (一一〇万円)

岩佐昌暲 (九州大学)

唐代音楽の文献的研究 (八〇万円)

齋藤茂 (大阪市立大学)

李白の文一記・銘・讃の訳注考証 (一四〇万円)

市川桃子 (明海大学)

清朝における唐詩研究 (九〇万円)

赤井益久 (國學院大学)

全国漢籍データベースの実現にむけて (二〇〇〇万円)

高田時雄 (京都大学人文研)

○基盤研究 (C) 継続

唐宋士大夫思想における三教交渉 (一〇万円)

中嶋隆藏 (東北大学)

六朝隋唐期道教經典に見える佛教概念の研究 (五〇万円)

神塚淑子 (名古屋大学)

南宋中期における士大夫思想交流の基礎的研究 (九〇万円)

市來津由彦 (広島大学)

社会変動期における思想転向の意味—楊度の思想遍歴を通して— (八〇万円)

石川英昭 (鹿児島大学)

中国西南の仮面劇と基層文化の研究 (五〇万円)

稲畑耕一郎 (早稲田大学)

朝鮮版『文選』の総合的研究 (六〇万円)

磯部彰 (東北大学)

西夏文字資料による中国近世語史研究の可能性に関する基礎的研究 (八〇万円)

大塚秀明 (筑波大学)

上海刊行の「石印鼓詞」と小説、宗教儀礼・宗教演劇のかかわりに関する研究 (五〇万円)

大塚秀高 (埼玉大学)

北宋古文運動と科挙制度に関する研究 (四〇万円)

東英寿 (鹿児島大学)

中国近代文学に表現された「学校」イデオロギーに関する研究 (六〇万円)

宮尾正樹 (お茶の水女子大学)

中国文学理論の表現形式に関する研究 (七〇万円)

和田英信 (お茶の水女子大学)

唐宋期の詩と詩学に関するメディア論的研究 (一一〇万円)

浅見洋二 (大阪大学)

中国古小説の類話集成に関する研究 (六〇万円)

富永一登 (広島大学)

六朝詩語の研究 (五〇万円)

佐藤利行 (広島大学)

石印版小説と近代小説の関係 (五〇万円)

丸山浩明 (広島女子大学)

中国演劇におけるリアリズム概念の成立と発展 (五〇万円) 瀬戸宏 (摂南大学)
漢魏晋南北朝詩「詩語」集成 (五〇万円) 松浦崇 (福岡大学)

○萌芽的研究 新規

中国文化構造における「天」と「人」の関わりについての原理的研究 (七〇万円) 関口順 (埼玉大学)
戦国楚系文字資料による漢語史再構のための予備的研究 (七〇万円) 大西克也 (東京大学)

○萌芽的研究 継続

衛星画像を利用した中国宗教地理学構築の試み (七〇万円) 麦谷邦夫 (京都大学)
初期朝鮮朱子学に関する研究 (六〇万円) 佐藤貢悦 (筑波大学)
和漢古典分類語彙の階層化に関する基礎的研究 (五〇万円) 相田満 (国文学研究資料館)
ペルシャ資料による中国語音韻史研究 (六〇万円) 遠藤光暁 (青山学院大学)

○奨励研究 (A) 新規

周末漢初における「格言集」の形成と展開—新出土資料より見た— (五〇万円) 井上了 (大阪大学)
清末「啓蒙」思想の基礎的研究

—19世紀後半の改革論を中心に— (二〇万円) 川尻文彦 (帝塚山学院大学)
中国人社会における中医薬の展開に関する史的研究 (一三〇〇万円) 帆刈浩之 (川村学園女子大学)
五四時期・北京の文学結社に関する基礎的研究

—メディア社会文化史の視点から— (一六〇万円) 清水賢一郎 (北海道大学)
中国唐代初期小説の研究—その小説史的位置の見直しとそれにもとづく作品論の試み— (一二〇万円)

近現代日中知識人交流に関する基礎的研究 (二〇万円) 小川 (溝辺) 良恵 (東京大学)
京劇演目のデータベース化 (一〇〇万円) 星野幸代 (名古屋大学)
台湾「皇民文学」の基礎的研究 (一五〇万円) 加藤 徹 (広島大学)
星名宏修 (琉球大学)

○奨励研究 (A) 継続

魏晋南北朝期における注釈学の歴史的展開に関する研究 (一〇〇万円) 古勝隆一 (京都大学)
明末蘇州の思想界 (五〇万円) 鶴成久章 (福岡教育大学)
郭店楚墓竹簡の利用による戦国儒家思想史の再検討 (七〇万円) 末永高康 (鹿児島大学)
全相平話二種データベースの構築 (五〇万円) 二階堂善弘 (茨城大学)
清末民国期における詩讀体講唱芸能の成立と出版に関する研究 (七〇万円) 上田 望 (金沢大学)
呉語処衢方言群の基礎的研究 (四〇万円) 秋谷裕幸 (愛媛大学)
中国における「郷土文学」の諸相 (六〇万円) 秋吉 收 (佐賀大学)

○研究成果公開促進費

日本における老荘思想の受容 (一五〇万円) 王迪 (日本学術振興会・お茶の水女子大学)
唐代の思想と文化 (一八〇万円) 西脇常記 (京都大学)
鮑參軍詩集 (三三〇万円) 鈴木敏雄 (兵庫教育大学)
魯迅と漱石の比較文学的研究 (一〇〇万円) 李 国 棟 (広島大学)

中国近現代文学関係雑誌記事データベース (DJAMCL) (二二〇万円)
中国近現代文学雑誌記事DB作成WG代表者 尾崎文昭
中国語音声教育データベース (EDCP) (一一三〇万円)
中国語音声教育データベース作成委員会委員長 湯山トミ子